

測は至難であり観測数が少ないこと、雪の力学的性質が温度等の条件により著しく変わるので種々のデータを系統的に整理することが困難であることがあげられる。新庄雪氷防災研究支所と長岡雪氷防災実験研究所の雪崩に関心をもつ研究者らは、模擬物質を用いた雪崩の実験を行い、その運動特性と内部構造の研究に取り組んでいる。模擬物質としては、ピンポン球が使われている。これは、形状がきわめて球に近い、均質なものを多量に使える、材質があまり変化しない等の理由による。

図1に新庄雪氷防災研究支所の雪崩実験シュート(斜面長20m, 幅1m, 傾斜30度)で行われた実験の様子を示す。実験は、シュート上端に集めた約1万個のピンポン球を一度に解放することにより開始された。ピンポン球は、互いに衝突・反発しながら、全体が一团となって斜面を流れ下った。この様子を撮影したビデオ画像により、“ピンポン球雪崩”の速度、加速度の解析が進行している。また、図2は、ピンポン球雪崩を側面から撮った画像であり、この雪崩が粒子密度の異なる2層から成ることを示している。現在、傾斜の異なるシュートでの実験や粒子数を変えた実験を行い、雪崩の形態、内部構造および運動特性のこれらの条件に対する依存性について研究を進めている。

(科学技術特別研究員 小杉 健二)

## 1月の地震活動

海域の地震と深発地震を除いて、関東・東海地域に発生した顕著な地震活動としては、岐阜、長野県境付近の地震(1日11時4分、深さ5km, M4.1及

び15日16時29分、深さ5km, M3.7), 房総半島南端付近の地震(19日11時4分深さ47km, M3.6), 茨城県南西部(23日15時43分、深さ69km, M4.6)が挙げられる。長野県西部の群発地震活動も、依然として活発である。

## 人事異動

1月25日付	採用	気圏・水圏地球科学技術研究 部主任研究官	倉内 隆
1月31日付	辞職	管理部施設課管理係長	福島崇文
	併任	管理部施設課管理係長	渡辺孝一
2月1日付	配置換	管理部施設課	上野善之
	出向	京都大学助手(防災研究所)	
	併任	地圏地球科学技術研究部 地殻変動研究室	大見士朗

## 国際交流

1. 27~2. 26 石田 瑞穂(地圏地球科学技術研究部地震活動研究室長)高性能広帯域観測網のデータを用いたリアルタイム処理システムのためのプログラム開発のため(ニュージーランド)

2. 13~2. 20 岡田 義光(地震予知研究センター長)1994年ノースリッジ地震(ロサンゼルス地震)の被害状況及びその原因等の調査(東京都調査団)のため(アメリカ)

## 主な来訪者

1月13日(木) 海洋科学技術センター林理事  
1月18日(火) 幕張総合技術センター  
1月20日(木) 中国技術研修員(神奈川県環境科学センター)  
1月28日(金) 工業技術院高分子研究交流会

編集兼 防災科学技術研究所  
発行 〒305 茨城県つくば市天王台3-1  
TEL (0298) 51-1611 (代)

(再生紙使用)

